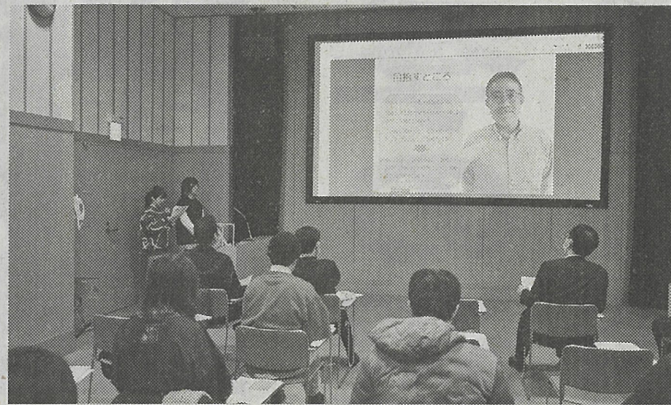


鶴居視察 強みや課題は

釧路公立大学 釧路大ゼミ生 研究成果を発表



ゼミ生による研究発表

1月29日の発表会には3、4年生14人が現地またはオンラインで参加し、視察に関わった地元の関係者が出席。大石正行村長は「柔軟な発想の考えを聞かせてほしい」とあいさつした。

このうち、3年生の酪農チームは、生き物の生態系のように複数の企業や団体が連携し、共存共栄していく「ビジネスエコシステム」の視点から、村における酪農の強みと課題について発表した。

た点を挙げた。

課題としては、IoT（モノのインターネット）など新技術を導入すると、労働力不足の改善や効率の向上が期待される一方、多額の資金が必要で、中小規模の酪農家が多い鶴居では積極的に導入できる農家が少ないことや、丘陵地が多くトラクターの運転などの自動化が難しいことなどを指摘した。

（水谷友路）

【鶴居】釧路公立大学の川島啓教授のゼミ生による学生発表会が、村ふるさと情報館「みなくる」で行われた。同ゼミが、村産学官連携事業の一環で昨年6月21、22の2日間に行った村内視察をベースとして、経済学に基づきそれぞれの研究成果を報告した。

強みについては、乳質改善奨励事業による村独自の交付金や中山間地域等直接支払交付金により、農業を行う上で不利な地域でも農業生産を維持できる制度が